1　　相応のふるまい 　文法　歴史的仮名遣い・文節・単語

ある人、ⓐゑのこをいとⓑいたはりけるにや、その主人より帰りける時、かのゑのこ、そのに登り、胸に手をあげ、口のほとりをりまはる。これにⓒよつて、主人愛することいやましなり。馬ほのかにこのを見て、うらやましくやⓓ思ひけむ、「あつぱれ我も①かやうにこそしらめ」と思ひさだめて、ある時、主人外より帰りける時、②馬、主人の胸にとびかかり、顔を舐り、尾を振りてなどしければ、主人これを見てはなはだりをなし、ぼうをおつ取つて、もとのにおし入れける。

そのごとく、人の親疎をⓔわきまへず、わがかたよりこそはなはだもつてⓕをかしきことなれ。わが程々に従つて、そのをなすべきなり。

語注

馳走顔＝相手の世話をし、手厚くもてなしたことに満足した顔。

基本古語

いと（副）＝①非常に。たいそう。②［下に打消を伴って］それほど（〜ない）。大して（〜ない）。

由（名）＝①理由。②由緒。③事の次第。

をかし（形シク）＝①趣がある。②心がひかれる。③だ。

【原文】

ある人、ゑのこをいといたはりけるにや、その主人より帰りける時、かのゑのこ、そのに登り、胸に手をあげ、口のほとりをりまはる。これによつて、主人愛することいやましなり。馬ほのかにこのを見て、うらやましくや思ひけむ、「あつぱれ我もかやうにこそしらめ」と思ひさだめて、ある時、主人外より帰りける時、馬、主人の胸にとびかかり、顔を舐り、尾を振りてなどしければ、主人これを見てはなはだりをなし、ぼうをおつ取つて、もとのにおし入れける。

そのごとく、人の親疎をわきまへず、わがかたよりこそはなはだもつてをかしきことなれ。わが程々に従つて、そのをなすべきなり。

問一　次の「内容わしづかみ」の空欄に本文中の語句を書き入れよ。

主人が帰宅した時、子犬が膝に上って胸に手をのせ、口の周りをめたところ、主人はますますかわいがった。それを見た馬が〔　　　　　　　〕思い、同じことをしたところ、主人は〔　　　　〕、〔　　〕をへ押し込んだ。人は自らの〔　　〕をわきまえて人への応対をすべきである。

問二　二重線部ⓑ〜ⓔについて、語句の発音の仕方を、例にならってカタカナで答えよ。〈3点×4〉

読み　例　かやう→カヨー

ⓑいたはり→〔　　　　〕　ⓒよつて　　→〔　　　　〕

ⓓ思ひけむ→〔　　　　〕　ⓔわきまへず→〔　　　　〕

問三 二重線部ⓐ・ⓕは五十音図の何行の何段か。カタカナで答えよ。〈3点×2〉

ⓐ〔　　　行　　　段〕　ⓕ〔　　　行　　　段〕

問四　チェック問題　歴史的仮名遣い・文節・単語

　⑴　ア行・ヤ行・ワ行の表を完成させよ。〈1点×3〉

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ワ行 | ヤ行 | ア行 |  |
|  |  |  | ア段 |
|  |  |  | イ段 |
|  |  |  | ウ段 |
|  |  |  | エ段 |
|  |  |  | オ段 |

⑵　次の語をひらがなで現代仮名遣いに改めよ。〈1点×6〉

1　ゐる（居る）　　　2　すゑ（末）　　　3　くわかく（過客）

4　いうれい（幽霊）　5　てうど（調度）　6　あふぎ（扇）

１〔　　　　　〕　２〔　　　　　〕　３〔　　　　　〕

４〔　　　　　〕　５〔　　　　　〕　６〔　　　　　〕

問五　傍線部①「かやうに」が指す子犬の行動を本文中から二十五字以内で抜き出し、最初と最後の五字を答えよ。〈6点〉

〔　　　　　　〕～〔　　　　　　〕

問六　傍線部②とあるが、馬がこのような行動をとった理由を説明した次の文の空欄に入る言葉を、十五字以内で答えよ。〈10点〉

子犬のように〔　　　　　　　　　　　　　　　　　〕から。

問七　本文で述べられている教訓として最も適当なものを選べ。〈7点〉

ア　大げさなもてなしよりも、さりげない心遣いが大切である。

イ　相手との関係を考え、ふさわしい振る舞いをするべきである。

ウ　人のまねをする時には、細心の注意を払わなければならない。

エ　他人から評価されるには、だれよりも早く行動する必要がある。

〔　　　〕

【解答】

問一　うらやましく　怒り　馬　程

問二　ⓑ＝イタワリ　ⓒ＝ヨッテ　ⓓ＝オモイケン　ⓔ＝ワキマエズ〈3点×4〉

問三　ⓐ＝ワ行エ段　ⓕ＝ワ行オ段〈３点×２〉

問四　⑴〈１点×３〉

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ワ行 | ヤ行 | ア行 |  |
| わ | や | あ | ア段 |
| ゐ | い | い | イ段 |
| う | ゆ | う | ウ段 |
| ゑ | え | え | エ段 |
| を | よ | お | オ段 |

⑵　1＝いる　　　2＝すえ　　　3＝かかく〈１点×６〉

　　　　　4＝ゆうれい　5＝ちょうど　6＝おうぎ

問五　その膝に登～舐りまはる〈６点〉

問六　（子犬のように）主人にかわいがられたいと思った（から。）（15字）〈10点〉

問七　イ〈７点〉

【現代語訳】

ある人が、子犬をとてもかわいがったのであろうか、その主人が外から帰った時、その子犬が、主人の膝に上り、（主人の）胸に前足をあげ、（主人の）口の周りをなめ回す。このことによって、主人が（ゑのこ（子犬）を）愛することがますます強くなる。馬がちょっとこの次第を見て、うらやましく思ったのだろうか、「ああ私もこのようにしましょう」と心に決めて、ある時、主人が外から帰った時、馬は、主人の胸に飛びかかり、（主人の）顔をなめ、尾を振りなどしたところ、主人はこの態度を見てたいそう怒り出し、棒をぱっと取って、（馬を）もとの馬屋に押し入れた。

そのように、人との関係を心得ず、自分の方からもてなし満足した顔をするのはたいそう滑稽なことである。自分の身の程をわきまえて、人への応対をするのがよいのである。

【補充問題】

問１　以下の語句について、発音の仕方を、カタカナで答えよ。

①「舐りまはる」（２行目）

②「あつぱれ」（３行目）

③「かやうに」（３行目）

④「従つて」（８行目）

問２　「その主人外より帰りける時」（１行目）について、文節の切れ目に、線を入れよ。また、付属語を一語ずつ〇で囲め。

問３　「この由」（３行目）が指す内容を、二十字以内で答えよ。

問４　「主人これを見てはなはだ怒りをなし」（５行目）とあるが、なぜか。最も適当なものを選べ。

ア　馬が、自分の体の大きさをわきまえない振る舞いをしたから。

イ　馬が、かわいがっている子犬のまねをしたから。

ウ　馬が、自分の持ち場を離れて、勝手に馬屋から出たから。

エ　馬が、かわいがっている子犬より先に出迎えをしたから。

【補充問題解答】

問１　①ネブリマワル　②アッパレ　③カヨーニ　④シタガッテ

問２　文節　＝その／主人／外より／帰りける／時

付属語＝の・より・ける

問３　子犬が主人にかわいがられている様子。（18字）

問４　ア